



いちかわ 縄文の散歩道

曾谷・宮久保界隈発見マップ

発行:市川市 文化振興課 平成24年11月改訂

- 市内には有名な貝塚があります。
市川市内にある貝塚としては、堀之内貝塚や姥山貝塚、曾谷貝塚が有名です。
曾谷貝塚は、東西210m、南北240mという規模で北の谷側に開口した貝塚で馬蹄型貝塚としては、日本一の広さをもっています。
人々が住み始めたのは、8000年前ごろからで、貝塚が形成されたのは約4~3千年前のこととなります。発掘調査では、住居址が37軒、埋葬人骨20体、埋葬された犬の骨4等分が検出されています。そのほか土偶、石皿、骨針などが出土しています。
- 縄文時代は今から2千~1万1千年前をいう
ケモノのほかに、魚や肉を盛んに食べていましたが、植物が重要な食料になったようです。そこでは、定住的生活が定着し、縄文人の物質的文化は豊かなものとなりました。
- 生活技術
縄文人は、石、粘土、骨、角、牙、貝、皮、木、草などを材料に、種々生活用具、工具、装飾品などをつくり、使ってきました。粗末な道具でつくったにもかかわらず、優れた工芸品が多いのに驚かされます。
- 山の幸...けもの
肉は食用、毛皮は衣料や敷物、骨角は道具、装身具に使われました。狩猟は盛んでしたが弓矢猟が中心で、犬を伴うことも特色です。槍で突いたり、棍棒でたたくなどもありました。
市川では、イノシシ、ニホンジカを中心にキツネ、タヌキ、アナグマ、テン、イタチ、ウサギ、サルなどが見つかります。鳥は多くありません。
- 山の幸...植物
土器や、石皿、磨石などの調理具の普及と、アク抜き技術の開発などで縄文時代は植物食、それも澱粉食の時代となりました。クルミ、クリ、シイ、ドングリ、トチ、カヤ、ヒシなどの種実類、葉茎類、根茎類、果実類などの野生植物に加え、リュクトウ、シソなどの栽培植物も一部利用されていたようです。種実類は穴や屋根裏に貯蔵し、きびしい冬の重要な食料となり、定住生活を支えました。

